『文明と文化の教育』（山崎　正和　著）　解説プリント

【第三段落】（P19 L6～P20 L9）

◎最終段落の解説になります。

> 文明の教育と文化の教育はいささか異なります。文明の教育が世界の果てまで容易に広がっていくのに対して、文化の教育は人間の身体の能力に結びついているため、容易に平面的には広がらないのです。

まとめの段落ですので「文明と文化」の対比になります。対比するときは、ポイントを絞るのがテーマを明確にするために大事なことです。この文章では対比ポイントを「教育」にしています。

「文明の教育」…「世界の果てまで容易に広がっていく（＝潜在的な能力を元にした合理的なものだから）」

「いささか（少し。わずか。）異なります。」

「どこ」でも「誰」でも変わらない

「文化の教育」…「容易に平面的には広がらない（＝人間の身体の能力に結びついているため）」

このことの具体例にまた「ピアノ」と「ピアノを弾くこと」の対比をもってきます。

> ピアノの弾ける人が集団的に増え、その集団が面をなして広がっていくことは考えられないでしょう。ただ、その代わりというべきか、文化は文明地図の距離を超えて突然に、一人の身体から他の人の身体へと伝わることがあります。近年、中国や韓国から優れたピアニストが輩出していますが、彼らの育った環境はピアノにとっては異文明の世界でした。しかし、そうした環境にあっても、一人の個人が懸命に練習することで、文化としてのピアノを身につけることができたのです。

ここの構造を確認してみましょう。

が「集団的に増え、その集団が面をなして広がっていくこと」は無い。

「文明」＝　「文化」＝　「文明の教育」＝　「文化の教育」＝

一律に「ピアノを弾く」能力を持ち合わせていないから。

「ピアノの弾ける人」

が「文明地図の距離を超えて突然に、一人の身体から他の人の身体へと伝わること」はある。

Ex

中国や韓国の優れたピアニスト

：＝ピアノは異文明の世界

「しかし」

「一人の個人が懸命に練習することで、文化としてのピアノを身につけることができた」

※ヨーロッパで「ピアノ」という文明は産まれている＝中国・韓国にとっては異文明

「ヨーロッパで産まれたピアノという文明」は「アジア圏の中国・韓国」とは「文明地図の距離」があります。でも、「文化」は、「文明が身についた姿」であり、「意識化された習慣」なのですから、近くに当該の文明が存在しなくても、一人一人の「身体的能力」を「意識的」な努力によって「身につける」ことができるのです。

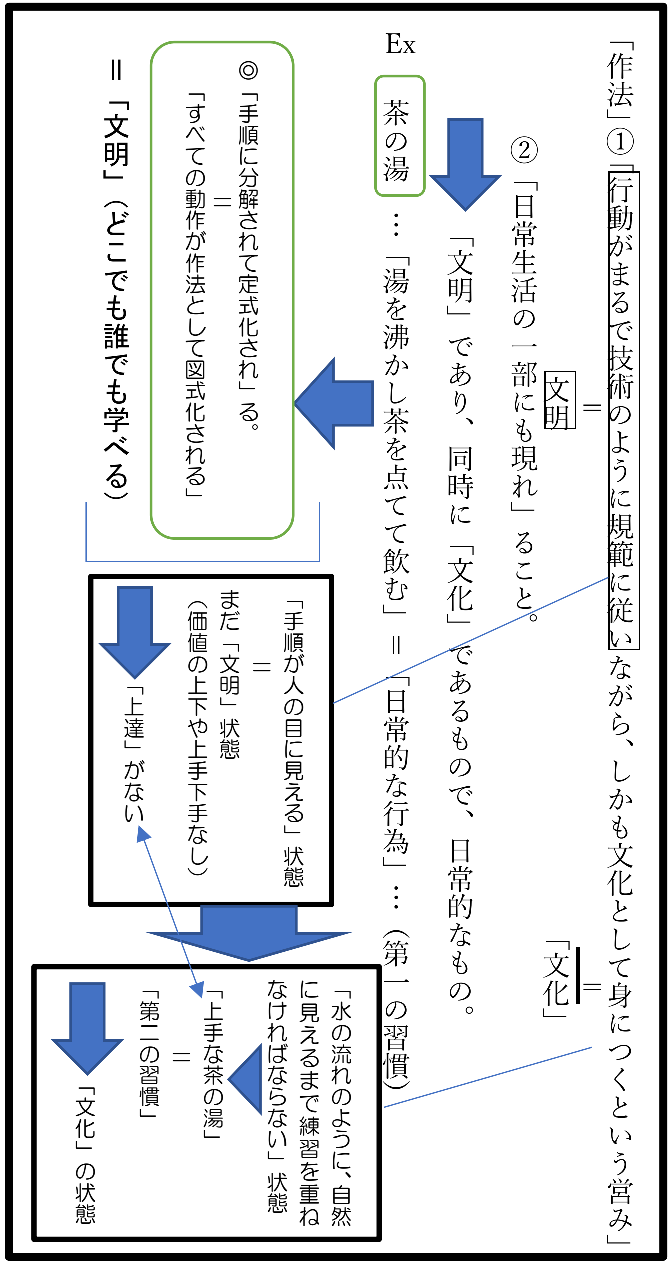
文章は、もう一つの具体例に続きます。

　行動がまるで技術のように規範に従いながら、しかも文化として身につくという営みは、日常生活の一部にも現れます。一般にこれは「作法」と呼ばれますが、そのもっともいい例が日本の「茶の湯」でしょう。

　湯を沸かし茶を点てて飲む。このごく日常的な行為が、茶の湯ではまずいったん手順に分解されて定式化されます。帛紗を捌き、茶碗を拭うといった、すべての動作が作法として図式化される。しかし、茶の世界でよくいわれることですが、手順が人の目に見えるようではまだ上達したとはいえない。水の流れのように、自然に見えるまで練習を重ねなければならない。言いかえれば、第二の習慣となったときに、上手な茶の湯、つまり文化としての茶の湯が成り立つのです。

　したがって、文化の教育は非常に難しいともいえるし、しかし一人一人の個人が自分の責任と努力によって習得できる不思議なものだともいえます。

この具体例がいいたいことは何か？



「作法」①「行動がまるで技術のように規範に従い」ながら、しかも文化として身につくという営み」

＝文明

＝「文化」

②「日常生活の一部にも現れ」ること。

「文明」であり、同時に「文化」であるもので、日常的なもの。

Ex

茶の湯 …「湯を沸かし茶を点てて飲む」＝「日常的な行為」…（第一の習慣）

◎「手順に分解されて定式化され」る。
＝
「すべての動作が作法として図式化される」

＝「文明」（どこでも誰でも学べる）

「手順が人の目に見える」状態
＝
まだ「文明」状態
（価値の上下や上手下手なし）

「上達」がない

「水の流れのように、自然に見えるまで練習を重ねなければならない」状態

「上手な茶の湯」
＝
「第二の習慣」

「文化」の状態

「イイタイコト」のまとめです。

・「文明」…①潜在的な能力を元にできている②共通して理解できる性質を持っている→教育によって簡単に広がる。

・「文化」…①個人の能力によって身につくか決まる→簡単に世界に広がるかどうかはわからない。→「難しい」

でも（逆接の接続詞は大事です。筆者の意見はこの後にあることが多い）

②個人の努力や意識（責任）によって、時・場所関係なく身につけることができる→「不思議なもの」

それの内容が文章の最後に「文化の教育は非常に難しいともいえるし、しかし一人一人の個人が自分の責任と努力によって習得できる不思議なもの」とまとめられています。

※以上、文章の解説でした。何度も読み返して文章解釈に努めてください。